

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370315

研究課題名(和文) 詩人アーネスト・ヘミングウェイの発見：「うた」と日本的感性

研究課題名(英文) Ernest Hemingway, the Poet: "Songs" and Japanese sensitivity revealed

研究代表者

真鍋 晶子 (Manabe, Akiko)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：80283547

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：未評価の「詩人」アーネスト・ヘミングウェイの価値、また、その詩の「歌」としての特性、及び文学上の師であるエズラ・パウンドから伝わった日本原理を解明する本研究の成果を世界に周知した。

ヘミングウェイの詩における「間」「空」を俳句や墨絵との関連で論じ、また、言葉の音楽性、狂言的「笑い」の文体への反映と言った視点で、モダニズム以後の日本と西洋の関係を読み解いた。パウンドの日本理解の原点フェノロサも検討し、ヘミングウェイ詩の源流に切り込むと同時に、アイルランドの詩人・劇作家W.B. イェイツとパウンドの狂言要素も盛り込み、モダニズム以後の英語圏文学における日本の意義を深めた

研究成果の概要(英文)：Much of my research has been on Ernest Hemingway as a poet whose value has seldom been acknowledged when compared to his novels. In particular, my interest has been in its unusual song-like quality. I have also examined the Japanese poetic style of his mentor, Ezra Pound. I have published my research as well as given lectures and papers internationally and domestically.

In addition, I have focused my research on the Japanese concepts of Ma and Kuu in Hemingway's poetry in relation to haiku and sumie drawings, incorporating the lyrical quality of words. By doing so, I have explored the relationship between Japan and the West as expressed in English literature throughout the Modernist era. Finally, I have also studied Ernest Fenollosa's role to trace the original source of Hemingway's poetic inspiration. This, in turn, led to further studies on the Irish poet/dramatist W.B. Yeats and the influence of Japan's traditional Noh and kyogen plays.

研究分野：英米アイルランド文学

 キーワード：アーネスト・ヘミングウェイ エズラ・パウンド 詩 うた 能楽 狂言 アーネスト・フェノロサ
笑い

1. 研究開始当初の背景

(1) 未踏の分野、ヘミングウェイの詩

大小説家として名声が確立しているヘミングウェイの詩人としての面を扱う既存研究がほぼなかった。『ヘミングウェイ大事典』(2012)において、入手可能な詩の解説を全て担当し、その詩の価値を発見した。結果を国内外の学会で口頭発表、論文を出版し、反応の大きさにこの研究の意義を確信した。

(2) 看過されていた重要点

言語実験と音楽性

ヘミングウェイは詩において、既存言語を解体し新しい言語を創出する。その詩は言葉のリズム・音を生かし、また遊び心が相まり、詩が本来「歌」であることを実感させる。

ヘミングウェイと日本

西洋・アメリカ原理の体現とされるヘミングウェイの詩に師パウンドから得た日本の文学伝統が流れる点は看過されている。

2. 研究の目的

未発掘の詩人ヘミングウェイの価値を確立しそれを世に知らしめる。

また、その詩が東洋・日本の文化・文学と通底すると明らかにする。さらにその普遍性、彼の詩の現代的意義を明確にする。また詩に吐露される死、特に自殺の問題を考察することで、ヘミングウェイに新しい光をあてる。

(1) 詩における言語実験と「歌」

既存の英語を解体し、斬新な言葉の形や用法が詩に現れることを示す。また、その詩の音楽性を実証し、それがテーマに応じた「歌」としての現れであることを検証する。

(2) 日本との接点(狂言、俳句)

「遊び心」時に残酷となる諧謔・諷刺は、師パウンドがフェノロサの遺稿から学んだ俳句、狂言に通ずることを明確にする。

(3) アイルランド

吟遊詩人は私の研究領域アイルランド文学に通ずる。アイルランド人親友チンク・ドーマン=スミス・オガワンとの関係を見極め、

ヘミングウェイに新たな光をあてる。

3. 研究の方法

(1) 図書・研究環境整備

本研究に必須の書籍・基礎資料、機器を充実させた。

(2) 資料蒐集

国際学会の前後及び別途、資料蒐集。

2014年ヴェニスでの国際ヘミングウェイ学会、2015年ブルネンブルクでの国際パウンド学会の際にヘミングウェイの詩のトポスが集中している北イタリアを現地調査。『ヘミングウェイとパウンドのヴェネツィア』、『ヘミングウェイ全詩集』、『ヘミングウェイとパウンドのイタリア』執筆の資料を集めた。

2016年オークパークでの国際ヘミングウェイ学会の際などに、ボストンのJ.F.ケネディ・プレシデンシャル・ライブラリーに、ヘミングウェイのマニスクリプト・書簡調査。

(3) 国際学会発表による研究交流

国際学会で発表した結果、他学会での公演や国際シンポジウムでの基調講演に招聘されたり、国際的学術誌への投稿を依頼された。このように国際学会での成果発表が研究交流を呼び、続く新たな研究に導かれた。

(4) 能楽師の聞き取り

能・狂言理解に関して、能楽師の聞き取り調査を行った。特に大蔵流狂言茂山千五郎家の狂言師、観世流シテ方能楽師、高安流ワキ方能楽師の協力をあおいだ。

4. 研究成果

(1) 著書出版

学会でヴェニスを訪れた際、ヘミングウェイとパウンド縁の地で資料蒐集。二人の詩学とヴェニスを取り巻く土地の意味の絡まり合いを読み解く『ヘミングウェイとパウンドのヴェネツィア』を共著者1名と出版。

ヴェニスでの日本、特に狂言とヘミングウェイの詩学についての学会発表が斬新だったため、スペイン、サラゴサ大学での学会に

招聘された。この2学会参加者の学際的論文を編集し、*Cultural Hybrids of (Post) Modernism: Japanese and Western Literature, Art and Philosophy*を出版。自らの論文も掲載。ヘミングウェイの詩に日本人的概念「間」「空」を探求する論文を掲載したが、本論点は研究開始時には気付いていず、本研究の過程で見出した新しい見地で、ヘミングウェイのみならず、英語圏モダニズム詩学と「間」「空」を今後の研究課題と定めた。

ヘミングウェイ、パウンドとイタリアに関する本を、共著者と計画中。(出版したヴェニスに関する著書の続編。)

J. F. ケネディ図書館での調査の結果、研究が進み、発表あるいは入稿済論文等に反映させた。未発表の詩も発見したものの、著作権に関して難航、研究は進んだが、詩集出版が滞っている。

(2) 国際学会発表・招聘講演

The Hemingway Society(ヴェニス(イタリア)、オークパーク(アメリカ))、Ezra Pound Society(ブルネンブルク(イタリア))の国際学会で、ヘミングウェイの詩と日本の原理、特に狂言、俳句、墨絵と絡め発表。「間」と「空」の論点が、欧米研究者に未知の視点を与えた。

ヴェニスでの発表をきっかけにサラゴサ(スペイン)での学会に招聘され、「個人」と「社会」の視点を英語圏モダニスト文学者と日本の詩学の関わりに導入した。また、その視点を発展させてダブリン(アイルランド)でラフカディオ・ハーンとフェノロサ、イエイツについて発表した結果、日本で開催された国際学会に参加することとなった。同時に、リムリック(アイルランド)開催 International Yeats Society の国際学会でイエイツと狂言についての発表のおかげで、バルセロナ(スペイン)での International Yeats Symposium 基調講演に招聘され、本研究を包括的にアメリカ、アイルランドのモダ

ニスト詩学と日本を絡める講演を行った。このように国際学会での成果発表が研究交流を呼び、新たな研究に導かれ、ヘミングウェイの詩学の根本を世に問うことができた。

そのお陰で、2017年日本・アイルランド外交成立60周年を記念する事業として、イエイツが狂言として書いたと自ら言っている戯曲と、ハーン作品に基づく新作狂言を大蔵流狂言茂山千五郎家が新作として演ずる公演をアイルランド3カ所で行う企画の責任者として、私の研究を生きた形で世界に問う形で実践することになった。これは、ヘミングウェイの詩学の根本に据えた狂言と歌のテーマを深め、新たな研究への礎を築いたことの現れである。

(3) 国内学会発表・招聘講演

国内でも発表を続けることから研究交流が生まれ、講演にも招聘された。日本アメリカ文学会(関西支部研究会)、日本ヘミングウェイ協会、日本イエイツ協会、国際アイルランド文学協会日本支部、日本アイルランド協会など関連学会の年次大会に参加、委員や理事をしているものは、企画・運営も行いつつ、シンポや個人発表で成果発表。国内発表はヘミングウェイの詩を日本の原理と歌の視点という新しい切り口で提示するもの、さらに、その視点を「世界文学」の視点から見直し、イエイツの劇と詩に狂言の角度から展開検討させたもの、そこへパウンド、フェノロサ、ハーンを絡ませ次元を深めるなど発展させたが、全てヘミングウェイの詩学と日本的要素、詩学、能楽に歌の観点が源流にある。

(4) 論文他出版

全ての出版論文は、上記の口頭発表・講演を発展させたもので、ヘミングウェイの詩を基調にイエイツ、パウンド、フェノロサ、ハーンの5人のアメリカとアイルランド出身の文学者を日本と「歌」の要素から多角的に

提示し、本研究の成果を世に問うた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

真鍋晶子「W.B. イェイツと能狂言」
CARA(日本ケルト協会)第24号、pp. 13-19、
日本ケルト協会、2017年

真鍋晶子「狂言とイェイツ」『エール』36号、
pp.121-24、日本アイルランド協会、2017年
真鍋晶子「ヘミングウェイの詩の文体」『ヘ
ミングウェイ研究』17号、査読有、pp. 35-48、
2016年

真鍋晶子「W.B. イェイツ、アーネスト・
フェノロサとラフカディオ・ハーン：東西に
響く三重奏」『ヘルン研究』創刊号、査読有、
pp. 72-82、2016年

Akiko Manabe, “W. B. Yeats, Ernest
Fenollosa and Lafcadio Hearn: Literary
Triptych connecting East and West (ハーン、
フェノロサ、イェイツ--東西を映す三面鏡),”
*Proceedings, Lectures Lafcadio Hearn &
Japan 8th October Dublin City University,
Dublin Ireland*, pp. 12-14, Dublin City
University/Sanin Japan Ireland
Association, 2016

真鍋晶子「パウンド、イェイツ、ヘミング
ウェイの日本との邂逅：狂言とヘミングウ
エイの詩をめぐって」『東京女子大学紀要
77号』pp. 51-68、査読有、2016年

Akiko Manabe, “W.B Yeats and
kyogen: Individualism & Communal Harmony
in Japan's Classical Theatrical Repertoire,
*ÉTUDE S ANGLAISES revue du monde
anglophone*” 査読有、pp. 425-41、215年

[学会発表](計17件)

“W.B. Yeats, Ernest Fenollosa and
Lafcadio Hearn: Three essential figures in
the opening of Japan to the West,” The
International Symposium Yeats & Asia:
Imagining Asia through Yeats, the
International Yeats Society, the East Asian

Studies & Research Centre of the
Universitat Autònoma de Barcelona、バル
セロナ、スペイン、2016年12月16日(招
待講演、基調講演)

「W.B. イェイツと能狂言」、日本ケルト協
会、於福岡市健康づくりサポートセンター視
聴覚室、福岡県福岡市、2016年9月11日(招
待講演)

「ヘミングウェイの詩と日本」、日本アメ
リカ文学会関西支部例会、武庫川女子大学、
兵庫県西宮市、2016年9月3日

“Poetics of *MA* or *KUU* in Hemingway's
Poetry,” The 17th International
Hemingway Conference, Dominican
University, オークパーク、アメリカ、2016
年7月18日

「アイルランド、異界との出会い~ジョイ
ス、イェイツそしてハーン」、山陰日本アイ
ルランド協会、島根県立大学短期大学部 松
江キャンパス、島根県松江市、2016年6月
11日(招待講演)

「サバティカルを終えて~発信と交流」
京都大学、京都府京都市2016年2月16日(招
待講演)

「W.B. イェイツ、アーネスト・フェノロ
サとラフカディオ・ハーン：東西に響く三重
奏」、富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会、
第1回国際シンポジウム「ラフカディオ・ハ
ーン研究への新たな視点」、富山大学、富山
県富山市、2016年2月13日

「ヘミングウェイの詩と文体」、シンポジ
ウム「ヘミングウェイの文体」、日本ヘミン
グウェイ協会大会、東京 ユビキタス協創広
場 CANVAS、内田洋行、東京都、2015年
12月12日

「イェイツと狂言」シンポジウム『日本と
W.B. イェイツー共鳴する想像力』日本アイ
ルランド協会研究年次大会、同志社大学、京
都府京都市、2015年12月5日

“*The Cat and the Moon and Kyogen*,” シ

ンポジウム “Yeats and Japan,” The First Conference of the International Yeats Society, University of Limerick、リメリック、アイルランド、2015年10月16日

“W. B. Yeats, Ernest Fenollosa and Lafcadio Hearn: Literary Triptych connecting East and West,” シンポジウム “Lafcadio Hearn and Japan,” (企画 “Open Mind of Patrick Lafcadio Hearn”) Dublin City University, ダブリン、アイルランド、2015年10月8日

Pound’s Debt to Hemingway as Reflected in his Neglected Works: Hemingway’s Poetry and *Across the River and into the Trees*, The 26th Ezra Pound International Conference、ブルネンブルク、イタリア、2015年7月8日

「『間』が西洋に与えた影響-フェノロサ、パウンド、イエイツの系譜 能狂言を中心に」、日本のアイデンティティ文化発信実行委員会 (JICP)、スミス記念堂、滋賀県彦根市、2015年6月27日 (招待講演)

“W.B Yeats, *Kyogen & Noh*: Individualism & communal harmony in Japan's classical theatrical repertoire,” サラゴサ大学主催学会 “Japan and the Individual: Eastern-Western perspectives” サラゴサ大学、サラゴサ、スペイン、2015年2月26日 (招待講演)

「エズラ・パウンドのモダニズム」中央大学人文科学研究所「モダニズム研究」公開研究会、中央大学駿河台記念館、東京都、2014年12月6日 (招待講演)

「『猫と月』と『猫と月』と日本」、(シンポジウム: イエイツ再読— 世界文学として < Perspectives of W. B. Yeats as 'World Literature' >、日本イエイツ協会、早稲田大学、東京都、2014年11月9日

“The influence of *Kyogen* and *Haiku* on Hemingway’s Poetry” (シンポジウム:

“Japanese Aesthetics in Hemingway”), The Hemingway Society 2014 Conference, “Hemingway in Venice” Venice International University, ヴェニス、イタリア 2014年6月27日

(図書)(計3件)(出版予定4件)

Akiko Manabe, Richard Kelly 他 *Crossings-Ireland and Japan*. Cork University Press, 2017年出版予定

真鍋晶子、南映子他『モダニズムを俯瞰する-両大戦間期のヨーロッパ、南北アメリカ、日本』(仮題)、中央大学人文科学研究所、2018年出版予定

真鍋晶子、新関芳生他『ヘミングウェイと伝記』松籟社、2018年出版予定

“Yeats, Fenollosa & Hearn: Triptych or Bridge between Japan and the West,” *Yeats and Asia*, Cork University Press, 2018年出版予定

Akiko Manabe, Beatriz Penas-Ibáñez 等 *Cultural Hybrids of (Post) Modernism: Japanese and Western Literature, Art and Philosophy* ed. by Beatriz Penas-Ibáñez and Akiko Manabe, Peter Lang社, pp.121-144, 2016年

真鍋晶子、今村楯夫『ヘミングウェイとパウンドのヴェネツィア』フィギュール彩26、pp.117-221、彩流社、2015年

真鍋晶子、木村正俊他『アイルランド文学』、開文社、pp.97-111、2014年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

真鍋 晶子 (MANABE, Akiko)
滋賀大学・経済学部・教授
研究者番号: 80283547